企業の連携進む 市内で広がる バイオの輪

地域にある資源と人がつながり、新たな価値を生み出す循環型社会「バイオコミュニティ」の実現へ。長岡バイオコンソーシアムに参画する企業や団体などが連携した、新しい挑戦が始まっています。

問産業イノベーション課☎39・2402

1 「越後ど発酵」ブランドで、1月ごろに発売予定の漬物など

2 寺泊港で揚がったカナガシラ

3 田んぼの土作りのイメージ

1 発酵技術の融合で食品ロスに新たな価値

柏露酒造㈱やみそ蔵のたちばな本舗、水耕栽培の㈱プラントフォーム、県醤油協業組合が取り組む「越後ど発酵共同プロジェクト」。市のバイオエコノミー推進事業補助金を活用し、廃棄される酒かすや野菜に、米こうじ、しょうゆを加えた漬物を開発します。

メンバーの柏露酒造・国井昭子さんとたちばな本舗・今井晴見さんは「長岡の強みである発酵技術を合わせれば、新しい価値を生み出せます。県内の食品ロスゼロを目指します」と話しました。

2 寺泊の未利用魚〝おいしく〟広める

市と寺泊漁業協同組合は、市場価値が低い「未利用魚」に注目。温暖化の影響で獲れる魚が変化する中、資源の活用は海の豊かさを守るSDGsの観点でも重要です。12月の食育イベントの開催や、1月に予定する飲食店とのコラボメニューの提供で、〝おいしく〟資源活用への理解を深めます。

3 食品由来の副産物 田んぼの土壌改良に

JA越後ながおか、㈱ホーネンアグリ、岩塚製菓㈱などは、米由来の資源循環を活かす「N（長岡）サイクルプロジェクト」に挑戦します。

米菓の製造工場で生まれる使い道のない副産物を、バイオ技術で田んぼの土作りの資材に。豊かな土壌を作り、ブランド米の生産を目指します。

トピックス アジア最大級のバイオ展で磯田市長が講演

世界26の国と地域から900を超える企業・機関などが集まったバイオの展示会「BioJapan」で、磯田市長が長岡のバイオ事業を紹介しました。6月に、長岡を含む全国4自治体が国から認定された「地域バイオコミュニティ」の認定証も授与されました。（10月14日）

魚沼市の避難所での避難者受け入れ

原子力災害に備え 越路・川口地域の住民が魚沼市へ広域避難の訓練

問原子力安全対策室☎39・2305

越路・川口地域の住民が11月13日、県の原子力防災訓練に参加しました。実際の避難先までの広域避難を行う訓練は初めてです。

訓練では、県から柏崎刈羽原子力発電所の事故発生の連絡を受け、電話や原子力防災ホームページなどで住民に情報や指示を伝達。両地域の住民は自宅で、放射性物質から身を守る屋内退避を行いました。

その後、各集落の代表者が一時集合場所に集まり、バスで魚沼市に避難する一時移転訓練を実施。安定ヨウ素剤の緊急配布、放射性物質による汚染状況を調べるスクリーニングや簡易除染など、一連の流れを確認しました。

参加した住民からは「避難の流れを理解することができた」「実際の災害時にスムーズにできるか心配」といった声が寄せられました。磯田市長は「より円滑で安全な避難ができるようにしっかりと考えていきたい」と述べました。

今後も国や県、関係市町村との連携を深め、防災体制の強化に取り組みます。

地域協働の鳥獣被害対策 協議会設立で体制強化へ

今年度、クマなどの鳥獣の出没件数が大きく減少しました。イノシシは、積極的な取り組みで昨年度の61頭を既に超える68頭を捕獲。野生動物による人身被害も発生していません（11月22日現在）。

市は、鳥獣被害に対するさらなる体制強化のため、農業協同組合や猟友会などと鳥獣被害対策協議会を設立しました。市全体で情報を共有し、関係機関が一体となって捕獲や防除、里山の環境整備などを行います。また、不要果樹の伐採やわな導入の補助など、野生動物を寄せ付けない取り組みへの支援も継続。鳥獣被害のないまちを目指します。

▲鳥獣被害対策協議会の設立総会（11月18日）

地域主導の協議会で対策のプロを養成

6月に小国地域、7月に栃尾地域で住民主導の協議会が設立されました。狩猟免許の取得講習を行い、地域で鳥獣対策のプロの養成も進めています。

▲小国地域で行われた狩猟免許の取得講習会（10月9日）

問鳥獣被害対策課☎39・2348

トピックス 登下校を安全に！小・中学生に「クマよけ鈴」を貸与

クマが近づくことを防ぎ、鉢合わせなどの危険を避けるため、音のよく響く「クマよけ鈴」を栃尾地域と山古志地域の小・中学生に貸し出しました。クマが通学路の近くまで出没する可能性の高い両地域で、登下校時の子どもたちの安全を守ります。

▶クマよけ鈴をランドセルにつける下塩小学校の児童

ICTの活用、消パイの節水 除雪研究会が提言

道路除雪の課題解消に産学官で取り組んできた「除雪イノベーション研究会」から10月7日、提言書を受け取りました。

▲経験の浅い運転員の作業を支援する音声ガイダンス装置

ICT（情報通信技術）を用いた除雪車の音声ガイダンス装置などの導入や、効率的な散水で消雪パイプの節水を進めることが示されました。

市は提言を踏まえ、道路除雪への新技術導入や、消雪パイプのさらなる節水に取り組みます。

問道路管理課☎39・2232

ロボコン全国大会で技大チームが初優勝

10月に行われた「NHK学生ロボコン」で、長岡技術科学大学のロボコン部「RoboPro長岡」が初優勝しました。大会は予選を勝ち抜いた16チームが出場。矢をつぼに投げ込んで得点を競う「投壺」で争いました。

12月の世界大会に臨む同チームは「今大会の課題を改善し、世界一を目指します」と決意を述べました。

問産業支援課☎39・2222

▲「RoboPro長岡」のメンバー